

主 訴

(保護者)

- ・自分の世界に入ってしまった時などは人の話が聞けない。
- ・整理整頓ができない。

(担任)

- ・友達とトラブルがおこると、興奮がなかなか収まらない。
- ・別の事をしていて、学習に集中できない。
- ・学習の準備に時間がかかる。

判 断

- ・検査の結果から、知的な発達の遅れは認められない。
- ・人との関わりが一方的で、相手の立場に立って考えられない。
- ・こだわりは軽いものが見られる。
- ・独り言や一人で話している事が多い。
- ・想像力が欠如している。(自分のファンタジーには入っていけるが、周りの人のアドリブにはついていけない。)

支援と配慮

< 通常の学級における支援 >

- ・反応、でき方を見て具体的に声かけをする。
- ・指示は具体的にする。
- ・トラブルが起こった時は落ち着かせてから、話を聞き別の対処の方法を具体的に教える。
- ・授業、作業などの始まり・終わりをはっきりさせる。
- ・出来ている事は具体的にほめる。
- ・家庭との連絡を密にする。
- ・座席は、後ろの角にする。

< 通常の学級外の支援 >

- ・ストップをかけて、考えさせる。
- ・ゲーム遊びを通して、勝ち負けにこだわらず楽しく遊ぶ経験をさせる。
- ・学級でのトラブルをロールプレイして考えさせる。
- ・コミュニケーションスキルの練習をする。

その後

よくなったところ

- ・トラブルが少なくなった。
- ・友達関係は良くなってきた。
- ・順序だてて話をする、ルールも守れるようになった。
- ・体育の着替えは、遅れないで出てこられるようになった。

課題

- ・学習の準備、整理整頓ができない。
- ・教室移動、休み時間の後、道草をしてなかなか教室に帰ってこない。

手だて

- ・ことばだけの注意、声かけだけでなく、一緒に実際にするようにしている。
- ・遅れて来たときには、行動を振り返らせ順序だてて話をするようにしている。

